

- 73.その時かれらに言われよう。「あなたがたが崇拝していた神々は何処にいるのか。
- 74.アッラーを、差し置いていたのか。」かれらは（答えて、）「かれら（神々）は、わたしたちから離れ去りました。いや、わたしたちは以前、何も（実巧のものに）祈ってはいなかったのです。」と言う。このようにアッラーは不信心の者を迷うに任せられる。
- 75.それもあなたがたが地上で、正しくない歓楽を追求し、また横柄であったためである。
- 76.あなたがたは地獄の門に入り、その中で永遠に住め。何と高擧の者の住まいの哀れなことよ。
- 77.あなたがたは耐え忍べ。本当にアッラーの約束は真実である。われがかれらに約束した一端をあなたに示すこともあろう。またはあなたを（その前に）召すことも。だがどちらにしても、かれらはわれの許に帰されるものである。
- 78.われはあなた以前にも、使徒たちを遣わした。その或る者に就いてはあなたに語り、また或る者に就いては語ってはいない。だがどの使徒も、アッラーの御許しによる外、印を（宙？）することはなかった。そしてアッラーの大命が下れば、真理に基づいて裁かれる。そのとき、虚偽に従った者たちは滅びる。
- 79.アッラーは、あなたがたのため家畜を創られた方で、あなたがたは、その或るものは乗用に、或るものは食用に用いる。
- 80.あなたがたはそれらに、様々の便益を被り、あなたがたの胸に抱く望・も、それらによって満たし、またその背や船によってあなたがたは運ばれる。
- 81.そしてかれは種々の印を、（絶えず）あなたがたに示される。一体アッラーの印のどれをあなたがたは否定するのか。
- 82.かれらは地上を旅して、観察しなかったのか。かれら以前の者の結末がどうであったかを。かれら（滅ぼされた民）は、これら（マッカの多神教徒）よりも多数で、力も優れ、地上の遺跡も多い。それでも、かれらの稼いだことは、何の役にも立たなかった。
- 83.かれらの使徒たちが種々の明証をもってかれらの処に来た時、かれらはその持っている知識（と技術）を誇った。だが、かれらの嘲笑していたことが、かれらを取り囲んでしまった。
- 84.それからかれらは、われの懲罰を見る時になって、「わたしたちは、唯一なるアッラーを信じる。そしてかれに配していたものを拒否する。」と言った。
- 85.しかしわれの懲罰を見てからの信仰（の告白）は、かれらの役には立たない。（これは）アッラーのしもべに対してなされたかれの慣行であった。そして、不信者たちは滅び去った。

SURA 41.フッスイラ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ハー・ミーム。

2. (これは) 慈悲あまねく慈愛ぶかき御方からの啓示である。
3. 印が詳細に解明された啓典, 理解ある民へのアラビア語のクルアーンで,
4. 吉報と警告 (を伝えるもの) である。だがかれらの多くは, 背き去って聞こうとはしない。
5. そしてかれらは言う。「わたしたちの心には, あなたが招くことに覆いがかけられている。またわたしたちの耳は遠く, しかもわたしたちとあなたの間には, 幕がかかっている。それであなたは自分の (望・の) ことを行え。わたしたちも自分の (望・の) ことを行う。」
6. 言ってやるがいい。「わたしは, あなたがたと同じ人間に過ぎない。唯, あなたがたの神は, 唯一の神であることがわたしに啓示された。それでかれに向かって真直ぐに傾倒し, かれの御赦しを祈りなさい。多神教徒こそ災いであり,
7. そのような者が喜捨を行わず来世を否定する者である。
8. 本当に信仰して善行に動しむ者には, 尽きることのない報奨がある。」
9. 言ってやるがいい。「あなたがたは, 2日間で大地を創られたかれを, どうして信じないのか。しかもかれに同位者を立てるのか。かれこそは, 万有の主であられる。
10. かれは, そこに (山々を) どっしりと置いて大地を祝福なされ, 更に4日間で, その中の凡ての (御恵・を) 求めるもの (の必要) に応じて, 御恵・を規定なされた。
11. それからまだ煙 (のよう) であった天に転じられた。そして天と地に向かって, 『両者は, 好むと好まざるとに関わらず, われに來たれ。』と仰せられた。天地は (答えて), 『わたしたちは喜こんで参上します。』と申し上げた。
12. そこでかれは, 2日の間に7層の天を完成なされた。そしてそれぞれの天に命令を下し, (大地に) 近い天を, われは照明で飾り, 守護した。これは, 偉力ならびなく全知なる御方の摂理である。」
13. それでもかれらが, 背き去るならば言ってやるがいい。「あなたがたに, アードとサムードの (被った) 落雷のような災難を警告する。」
14. 使徒たちが, かれらの前からまた後ろからかれらのところにやって来て, 「アッラーの外何のものにも仕えてはならない。」と告げた時のことを思い起こせ。かれらは言った。「わたしたちの主の御望・ならば, 必ず天使を御遣わしになるはずである。だからあなたがたが持って来たもの (啓示) をわたしたちが信じるわけがない。」
15. アード (の民) に就いては, 正当な抛り処もないのに地上で高慢になり, 「誰が, わたしたちよりも力が強いのでしょうか。」などと言った。かれらを創られたアッラーこそ, 力が強いということを考えないのか。しかもわれの印を拒否するとは。
16. だからわれは, 災厄の数日間に亘り, 暴風雨をかれらに送って, 現世において屈辱の懲罰を味わせた。だが来世の懲罰は更に屈辱を与え, 誰にもかれらは助けられない。

- 17.またわれはサムード（の民）を、導いた。だがかれらは導きよりも、盲目の方を良いとした。それで、かれらが稼いでいた（行いの）ために、不面目な懲罰の落雷がかれらを襲ったB
- 18.だが、われは信仰し主を畏れる者は救った。
- 19.その日、アッラーの敵は集められ、火獄への列に連らなる。
- 20.かれらが（審判の席）に来ると、その耳や目や皮膚は、かれらの行ってきたことを、かれらの意に背いて証言する。
- 21.するとかれらは、（自分の）皮膚に向かって言う。「あなたがたは何故わたしたちに背いて、証言をするのですか。」それらは（答えて）「凡てのものに語らせられるようにされたアッラーが、わたしたちに語らせられます。かれは最初にあなたがたを創り、そしてかれの御許に帰らせられます。」と言う。
- 22.また、「あなたがたは、自分の耳や目や皮膚が、あなたがたに背くような証言など出来ない（と思い）。自分を祢うこともしなかった。寧ろあなたがたは自分の行っていたことなど、アッラーが沢山知っておられる訳がないと、考えていた。
- 23.だが、あなたがたの主に就いて考えたこのことが、あなたがたを破滅に落とし入れ、失敗の原因となった。」
- 24.それでかれらが例え耐え忍んでも、業火はかれらの住まいであり、例え御情けを願っても、慈悲にあずかれない。
- 25.われは、かれらに（は立派に見える）仲間（の悪魔）を宛てがって置いた。それでかれら以前のことも、以後のことも、かれらに取っては立派に思われた。そしてかれら以前に過ぎ去ったジンと人間の、諸世代に下された言葉通りのことが、かれらに実証された。かれらは完全な敗北者となった。
- 26.信じない者は言う。「クルアーンに耳を傾けてはなりません。そしてその（読誦）中にしゃべりまくりなさい。そうすればあなたがたは圧倒出来ます。」
- 27.そこでわれは、不信心な者に強い懲罰を味わせ、かれらの最も醜悪な行いに応報する。
- 28.それはアッラーの敵への報酬、業火である。その中が、かれらのための永遠の住まいである。わが印を拒否していたことに対する報酬である。
- 29.すると不信心の者は、「主よ、ジンと人間の中でわたしたちを迷わせた者に、会わせて下さい。足の下に踏・つけて、最も卑しい者にしてやります。」と言う。
- 30.本当に、「わたしたちの主は、アッラーであられる。」と言って、その後正しくしっかりと立つ者、かれらには、（次から次に）天使が下り、「恐れてはならない。また憂いてはならない。あなたがたに約束されている樂園への吉報を受け取りなさい。（と言うのである）。
- 31.われは現世の生活においても、また来世においても、あなたがたの友である。そこではあなたがたの魂は望むものを得、そこではあなたがたの求めるものが得られる。

- 32.寛容にして慈悲深い御方からの歓待である。」
- 33.人びとをアッラーの許に呼び、善行をなし、「本当にわたしは、ムスリムです。」と言う者程美しい言葉を語る者があろうか。
- 34.善と悪とは同じではない。（人が悪をしかけても）一層善行で悪を追い払え。そうすれば、栗いの中に敵意ある者でも、親しい友のようになる。
- 35.だがよく耐え忍ぶ者たちの外には、それは成し遂げられないであろう。格別幸運な者たちの外には、それを成し遂げられないのである。
- 36.それからもし、悪魔の扇動が、あなたを唆かしたならば（どんな場合でも）アッラーの御加護を祈れ。本当にかれは全聴にして全知であられる。
- 37.夜と昼、また太陽と月は、かれの印の中である。それで太陽にも月にもサジダするようなことをしてはならない。それら（両方）を創られた、アッラーにサジダしなさい。あなたがたが仕えるのなら、かれにこそ仕えなさい。
- 38.もしもかれら（不信心者）が高慢で（主に仕えることを侮って）も、主の御許にいる者たちは、夜も昼もかれを讃え、弛むことをしらない。〔サジダ〕
- 39.かれの印の一つを、あなたは荒れ果てた大地に見る。われがその上に雨を降らせると、動きだし、盛り上がる。本当にそれに生命を与えられた方は、まさに死者を甦らせられる方である。かれは、凡ゆることに全能である。
- 40.わが印の曲解者は、われから隠れられない。火獄に投げ込まれる者となるのがよいのか、それとも審判の日に安心して来られる者となるのがよいのか。あなたがたが好む通りに行いなさい。本当にかれは、あなたがたの行うことを見守られる。
- 41.訓戒（クルアーン）がかれらのもとに来た時、それを拒否した者は（われから隠れられない）。本当にそれは偉大な啓典であり、
- 42.虚偽は、前からも後ろからも、近付ことは出来ない。これは、英明で讃美すべき方からの啓示である。
- 43.あなたが不信者に言われていることは、あなた以前の使徒たちが言われたことと同じである。本当にあなたの主は、寛容の主であり、また厳罰の主であられる。
- 44.われがクルアーンを外国語で下したならば、かれらはきつと、「この印は、どうしてはつきり述べられないのでしょうか。何と、アラビア人（の使徒）に外国語（の啓示）なのですか。」と言う。言ってやるがいい。「それは信仰する者にとっては導きであり、治療である。だが信じない者は、その耳が的くなり、またそれが（分らず）盲目である。かれらは、遠い所から呼びかけられる（ようなも）のである。」

45.われは確かにムーサーに啓典を授けたのだが、それに就いて異論が起こった。もし主から（審判の時に就いて）前もって、御言葉が下っていなかったならば、その時かれらの間は解決されていたであろう。だがかれらはまだ疑いを抱き半信半疑でいる。

46.善行をなす者は自分を益し、悪行をなす者は自分を損なう。あなたがたの主は、そのしもべを不正に取り扱われない。

47.（審判の）時に関する知識は、かれだけが知るどころ。かれが知らずに、一つの果実も、その外皮から出てくるものではない。また女や雌が子を宿すことも分娩することもない。その日、かれらに尋ねられる。「われの同僚とやら（の偶像たち）は、何処にいるのか。」かれらは申し上げよう。「あなたに御伝えます。わたしたちの中には一人の証人もおりません。」

48.かれらが先に拝していたものたちは、かれらを捨てて隠れてしまい、そこでかれらは、逃げ場もないことが分る。

49.人間は幸福を祈って、疲れることをしらない。だが不幸に見舞われると、落胆し絶望してしまう。

50.災厄にあった後われの慈悲に浴させると、かれは必ず、「これはわたし（の力）には当然のことです。（審判の）時が、来るとは考えられません。また主に婦されても、わたしはかれの御許で、褒美をもらいます。」と言う。だがわれはこれら不信心の者に対し、その行ったことを示し、必ず手荒い懲罰を味わせる。

51.われが人間に恩恵を示せば、かれは脇を向いて、（われに近付かず反って）退き去る。だが一度災厄に会えば長々と十分に祈る。

52.言ってやるがいい。「あなたがたは考えないのか。もしそれが、（本当に）アッラーから（下された）ものであっても、あなたがたは信じないのか。遠く離れ去って分裂する者ほど、酔く迷った者が（外に）あろうか。」

53.われは、わが印が真理であることが、かれらに明白になるまで、（遠い）空の彼方において、またかれら自身の中において（示す）。本当にあなたがたの主は、凡てのことの立証者であられる。そのことだけでも十分ではないか。

54.ああ、かれらは主との会見に就いて疑っているのか。本当にかれこそは、凡てのものを取り囲む方であるのに。

SURA 42.相談章〔アッ・シューラー〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ハー・ミーム。

2.アイン・スィーン・カーフ。